**台湾日本語教育學会　J-GAPTAIWAN第22回例会**

**テーマ：「A1 レベルを可視化する」**

**１．テーマ ：「A1 レベルを可視化する」**

**２．日時：2014 年 5 月 24 日（土） 午後１時～５時**

**３．場所 ：東海大学 HT302 遠距多功能教室暨會議室**

**４．問題提起**

入門期、初級レベルの日本語教育のシラバスは、教科書の普及により、構造的シラバス（発音、文字、単語、文型など）がイメージされることが多い。しかし、こうした構造シラバスを生かして、何ができるかを記述する目標は必ずしも明らかになっていない。CEFR の行動記述を見ても、たとえば、A1で＜F-290:人にものを聞いたり、人にものを与えたりすることができる＞とある一方で、A2 に＜F-095:もの自体を指し示して（ジェスチャー）、伝えたいことを相手にわからせることができる（例:「これをください」）＞とあるなど、A1 と A2 の下位レベルや評価基準は明らかになっていないものが多い。また、読解や作文は入門期には無理だという声を聞くこともあるが、文字や文の認識を読解ととらえるならば A1 でできる読解は皆無ではない。特に漢字を理解する台湾の学習者にはインターネットのサイトで全てを理解できなくても類推することで意味がわかることもあり、評価基準は日本や非漢字圏で日本語を学ぶ学習者と同じではないはずである。＜話す・聞く＞だけではなく、＜読む・書く＞の A1 の技能を再考し A1 の評価基準を明らかにすることで、入門期、初級前半のシラバスは異なる配置になる可能性もでてくる。A1 は入門期にあたることもあり、高校や大学など多くの教育機関で授業が行われているが、これらの下位レベルを明らかにすることで、台湾における入門期から初級前半、後半へのアーティキュレーションを整備していくことができるのではないだろうか。

**５．活動の目的と対象者**

 5 月の J-GAP の活動は、高校や大学の教師たちを対象に以下の点を学ぶ研究会を行いたい。 ① 台湾の A1 レベルの活動（話す・聞く・読む・書く・翻訳・文化理解）にはどのようなものが あるか。

 ② ①にはどのような構造的シラバス（文字、発音、文型、語彙）が求められるだろうか。 それは従来の初級の教科書のシラバスの配置と一致するのだろうか。

 ③ 補償、類推などストラテジー、辞書を調べる等の技能は A1 レベルで導入しなくてもいいのか。 するならどのように導入できるのか。

 ④ A1 レベルの中でも A1-1、A1-2、A1-3 など下位分類するなら、どのように並べることができるのだろうか。

**６．当日の研究会の進め方**

 ① CEFR や JF スタンダードの A1 レベルの記述を基準ごとに並べかえてみる

 ② 台湾で行われている、あるいは考えられる A1 レベルの活動を紹介してもらう（高校、大学、 塾、その他の教育機関の教師）

 ③ ②のシラバスを多角的な視点から分析する。

 ④ 評価基準を明らかにし、A1 の前半、後半のどこに位置するかを考える

主辦單位：東海大學日本語言文化学系・台灣日語教育學會J-GAPTAIWAN

贊助單位：國際交流基金

申し込み方法<https://docs.google.com/forms/d/1P-9tC7giU1AXrq8N9CgZZN4qIXu3owh3A-ELlYLfaLw/formResponse>

申し込み締め切り:2014月5月19日(月)正午12時

※申込者が**30**人で申し込みを切らせていただきますので、早めの申し込みよろしくお願いいたします。

問い合わせ:工藤節子（kudo@thu.edu.tw）